

豆腐メンタルな私

「もう、放つといて。うるさいなあ」

この春、私は荒れていた。きつかけはささいな人間関係だったが、何もかもやる気が起きなくて、宿題も忘れがちになった。家でもイライラして、妹に怒鳴り、母に注意され、部屋に閉じこもった。このままではいけないと思いつつも、どうしたらいいのか分からない。そんな日々だった。

ある日、私は母の前で爆発した。

「ママは、いい子の私が好きなんやろ。こんな私なんか要らんやん」言いたいだけぶちまけると、自分でも驚く程の涙がこみ上げてきた。母は優しく私を抱きしめて、頭をなでてくれた。小さい頃と同じ大好きな母の匂いに包まれて、私は思いきり泣いた。私はずっと泣きたかったんだと思った。

「だって、私は豆腐メンタルやから。人の目や、言葉が気になるの。豆腐みたいにもろくて、柔らかくて、すぐ崩れる、弱い心なの」
泣きながら言う私に、母は笑って、

「豆腐？亜美はな、豆腐は豆腐でも、絹ごし豆腐でも木綿でもなく高野豆腐やで？スポンジみたいにへこんでもすぐに戻る。それに美味しいおだしをしっかり吸って崩れない。おまけに栄養満点で、長期保存もできちゃう。本当は辛い事があっても、自分の糧にして、復活できる強い子やよ」

「えーっ。高野豆腐は苦手…」

「あっ、そうやったなあ」

私と母は笑い合った。笑いながら、心がすっと軽くなっていくのが分かった。

言葉ってすごい。笑ってすごい。悩んでうじうじしていたのが、ちよつとバカバカしく思えてきた。

豆腐メンタルな私。今はまだ絹ごし豆腐だけれど、いつか高野豆腐になれる日を目指して生きていこう。